

ふるさと Something NEWS

第36回

人間とロボットの望み

——人間のルーツ(ふるさと、元始)とは？

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤 建吉

人間の望み

筆者は、これまで30年

以上に足を踏み入れ、街中や田舎を歩いた。確かに、どの国に行っても人間の存在を感じる。したがって、地域づくりは人間の長い仕事であるか？と尋ねることも大

る条件により、そこに生きる人間は、姿や形、そして気質も変わる。そこでの暮らしに暮らしてきたか？」が、より大事である。

その状況は、私たちの身近を見ても気づく。

例えば、足の機能を高め、高速・大量化のため

も、次々と改良され進化し、最新版のものに置き換えられる。人間の身体にも人工物が装着や挿入されると、その新型をもつ人間と、旧型のままの人間との間に能力差が生じることになる。すると旧型よりも新型を重用し、その価値を求める行に注目や関心が置かれることになる。

また、「かわいい」を対象とした。アニメや映画の素材も素材とした。

映画の「二」に「Bicente」のメインの内部素子を指す。現代であれば驚かぬが、10年前は、結構衝撃的な質問であった。

「ロボット工学三原則」を「人間のルーツ(ふるさと、元始)」として、熟考する必要があるだろう。

新たな課題と対立

それらの技術や手段

も、次々と改良され進化し、最新版のものに置き換えられる。人間の身体にも人工物が装着や挿入されると、その新型をもつ人間と、旧型のままの人間との間に能力差が生じることになる。すると旧型よりも新型を重用し、その価値を求める行に注目や関心が置かれることになる。

乗用トラックになった。頭への支援は、コンピュータが誕生し、読み書き算盤の機能が一変し、人間同士の通信も担ってくれた。同時にカメラや映像伝達によるコミュニケーションもふつうのものとなった。

従来の元来人間の場合、進化の速度が遅く、すぐに旧式とならないから新型をそんなに早くは求められずいたのであった。が、今後、未来に生きる人間は、生き残りのために、生存競争が激しくなり、競争が激しくなる。それは、国と国の争いというより、個人と個人の争いとなる。未来の時代に生き残るためには、新型に自分をつくり替える能力が、それはその資金が必要ということである。

すると、かつてのように労働者と資本家という二極性が、際立つだろう。同時に、人間の身体や知能の面で、「元来人間」のままの人と、「改

造人間」となり得る人に区分けされる。それは、「ノンパワード人間」と「パワード人間」の区分けでもある。その両者の対立が顕在化するだろう。

ユーは老化しないので、人間と同じように老化を望むようになる。

また、戦闘能力を強化した「ロボット化した人間」は、兵士のサイボーグとして重用されるかもしれない。また、徴兵される人間が戦闘能力を高めるために自身を改造強化して入隊するかもしれない。同様に、人間の日常生活(就学・就職・就労・闘病など)においても優待を保つために、「ロボット化した人間(改造人間)」の存在が増えるかもしれない。

社会と人間の課題

すると、人々の世界は

快適や便利だけでなく、多くの課題も提供するようになる。「ふるさと」が地理的な人間生まれ故郷であるとする、これと対比して、人間の生まれ故郷の当初の「元来人間」を「人間のルーツ(ふるさと、元始)」として、熟考する必要があるだろう。

「ロボット工学三原則」

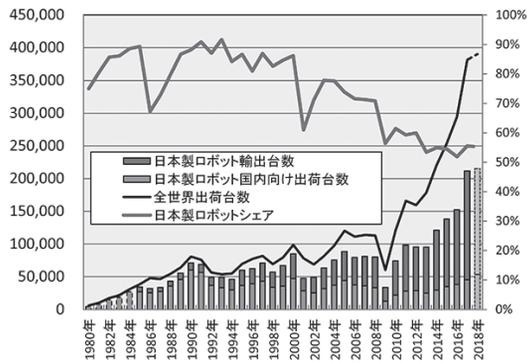
第一条 ロボットは人間に危害を加えてはならない。また、その危険を看過することによって、人間に危害を及ぼしてはならない。

第二条 ロボットは人間に命を脅かす命令に従ってはならない。

第三条 ロボットは、前掲第一条および第二条に反するおそれのないかぎり、自己をまもらなければならない。

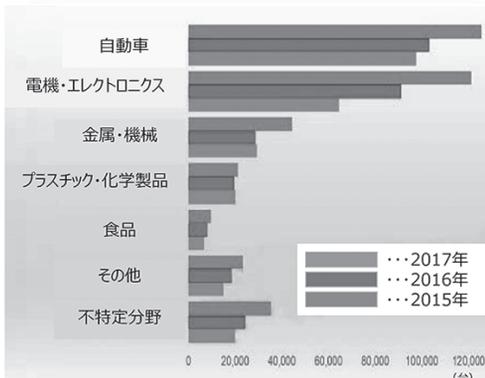
産業用ロボットの世界の販売台数は2013年から2017年の5年間で2倍に増加。今後も年平均14%増加するとの予想がある(資料：経産省)

世界の産業用ロボット年間出荷台数の推移



(出典) International Federation of Robotics, World Robotics 2018

世界の産業用ロボット推定販売台数(産業別)



(出典) International Federation of Robotics, World Robotics 2018

快適さや便利さの追求

人間は、2本足で目的

のところに自由に立ち入り、2本の腕と手で自由に、新たなモノづくりや、既存のものを改良し、暮らしを継続してきただけで済ませる。火の発見や道具を使うことが、他の動物との違いを生んだが、人間の身体にある脳こそが、身を補助する道具や機械が作りだした。

結果として、現代の暮らしや社会が構築されたが、それでも人間は、絶えずさらに楽をしようとする。自動化を進め、同時に知能化を進めてきた。

快適な便利さの追求は、なお終わらない。残っている課題は、健康に関する老化や病気に対する要求である。命の局面である生命が何によってつくりだされ(発生や誕生)、健康を維持し、さらには治療し補償するような手段が要求される。手足の道具や機械と同じように、人間の身体に人工物が装着され、さらに封入(インプラント)される。こうした利用が、ふつうとなる。また、体の中で、生育培養されるこ

すると、かつてのように労働者と資本家という二極性が、際立つだろう。同時に、人間の身体や知能の面で、「元来人間」のままの人と、「改

造人間」となり得る人に区分けされる。それは、「ノンパワード人間」と「パワード人間」の区分けでもある。その両者の対立が顕在化するだろう。

ロボットの望み

筆者は、これまで30年

以上に足を踏み入れ、街中や田舎を歩いた。確かに、どの国に行っても人間の存在を感じる。したがって、地域づくりは人間の長い仕事であるか？と尋ねることも大

る条件により、そこに生きる人間は、姿や形、そして気質も変わる。そこでの暮らしに暮らしてきたか？」が、より大事である。

その状況は、私たちの身近を見ても気づく。

例えば、足の機能を高め、高速・大量化のため

も、次々と改良され進化し、最新版のものに置き換えられる。人間の身体にも人工物が装着や挿入されると、その新型をもつ人間と、旧型のままの人間との間に能力差が生じることになる。すると旧型よりも新型を重用し、その価値を求める行に注目や関心が置かれることになる。

また、「かわいい」を対象とした。アニメや映画の素材も素材とした。

映画の「二」に「Bicente」のメインの内部素子を指す。現代であれば驚かぬが、10年前は、結構衝撃的な質問であった。

連載